

“NIDS NEWS”



防衛研究所企画部企画調整課 (03-3713-5912)

..... 2016年5月の主な出来事

《第45回NATO国防大学校長等会議（COC）於ポーランド》

5月24日・25日に、第45回NATO国防大学校長等会議（COC）がポーランド・ワルシャワで開催され、防衛研究所からは鈴木所長以下3名が出席しました。同会議は、NATO加盟国・パートナー国の国防大学等との関係強化を目指すとともに、欧州をはじめとした地域情勢及び安全保障上の諸問題と国防教育について意見交換をすることで、防衛研究所の調査研究能力・教育能力の向上を図るものです。防衛研究所は日本代表として第38回以来参加しており、今回で7回目の参加です。

会議のテーマは、「同盟の軍事的適応と戦略的コミュニケーション」で、各国代表の発表のほか、4つの分科会が行われ、職業軍人教育における戦略的コミュニケーション能力開発、学習プログラムにおけるハイブリッド戦と非対称脅威、サイバー戦争及び先進技術動向への学術的取り組み、新たな安全保障課題に適合するNATO国防大学カリキュラムについてそれぞれ議論が行われました。会議全体を通じて学術的かつ活発な議論が展開され、今後の防衛研究所における教育活動である一般課程等の教育カリキュラムの質的向上に関わる教訓を得ることが出来ました。



《防衛研究所所長によるポーランド国際関係研究所訪問》

5月27日、鈴木防衛研究所所長以下3名はワルシャワに所在するポーランド国際関係研究所を訪問し、「欧州と東アジアの安全保障課題——日本とポーランドの視点から」をテーマに研究会を実施しました。防衛研究所長がポーランドのシンクタンクにおいて研究会を実施するのは今回が初めてであり、歴史的に深い友好関係で結ばれた日本とポーランド両国における今後の関係強化が期待されます。



《ナイジェリア国防大学研修団ご来訪》



5月12日、ナイジェリア国防大学より、ハンフリー・チャクス・オクパラ空軍少将以下17名の研修団が来訪されました。ナイジェリア国防大学からの訪問は、2007年、2011年に引き続き、今回で3回目となり、日本とナイジェリアの良好な友好関係を示しています。ナイジェリア国防大学は、防衛研究所のカウンターパートであり、ナイジェリアにおける陸海空軍の幹部に対する高等教育を行う機関です。今回の研修団による日

本訪問では、経済発展や高い技術力など総合的観点からの先方の関心に応じた意見交換が行われました。

《第63期一般課程》

5月は、講座「日本の防衛」のほか、6個のセミナーを実施しました。さらに、政策シミュレーションの一環として、秋葉外務省総合外交政策局長による「外交と危機管理」と題した講義、また、特別講義として、ブルース・ミラー駐日オーストラリア大使による「豪州の国防政策及び日豪関係」及び安田慶應義塾大学教授による「中国の安全保障史」と題した講義を実施しました。

16日から27日までの間、研究論文発表会を指導教官同席の下、研修員全員が行い、研究成果の共有を図ることが出来ました。

《インド国防大学研修団ご来訪》

5月23日、インド国防大学より、ナヴキラン・シン・ガイ中將を団長とするインド国防大学研修団が防衛研究所を訪問されました。インド国防大学研修団による訪問は、1972年以来、15回を数えています。大西副所長への表敬では、両機関間の交流のさらなる強化や、国防大学として将来を担う人材育成や人的コミュニケーションの重要性について認識を共有しました。また、続く防衛研究所研究者との意見交換では、中国を含む地域情勢等について、活発な意見が交わされました。



《タンザニア国防大学研修団ご来訪》

5月30日、タンザニア国防大学より、ヤコブ・ハサン・モハメド少將を団長とする研修団が防衛研究所を訪問されました。タンザニア国防大学は2012年に設立され、研修団の訪問は今回が初めてです。大西副所長への表敬では、タンザニアは東アフリカ共同体において、地域の安定のために重要な役割を果たしている加盟国であること、日本がタンザニアにおける平和維持能力の向上のために、カナダ政府が主催する民軍協力コースへ専門家を派遣していることなどが言及されました。今回の研修団の訪問により、日本とタンザニアとの両国関係のさらなる発展と地域の安定に対する能力構築支援の重要性が確認されました。



お知らせ

防衛研究所の刊行物である『東アジア戦略概観2016』を公開しています。日本語版、英語版とも防衛研究所ホームページ (<http://www.nids.go.jp/>) にて、閲覧、入手可能です。

．．．．．「史料紹介コーナー」．．．．．

平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{とよだ} ^{そえむ} 豊田 副武 1885～1957年 》
 ー大分県出身の海軍大将ー



連合艦隊命令作綴 其の一 (登録番号：①命令-62)

豊田副武大将は、明治38年11月、海軍兵学校(33期)を卒業後、海軍省教育局長、軍務局長などの要職を務めたのち、昭和19年5月3日、連合艦隊司令長官に着任します。翌4日、豊田司令長官は各級指揮官に対し、「全艦隊ノ将士希クハ本職ト一心以テ此ノ大任ト光荣トニ對ヘムコトヲ期スベシ」と訓示します。この史料は「連合艦隊命令作綴 其の一」、いわゆる「那智史料」の一冊で、上記訓示の他、連合艦隊司令部の基本的命令が綴られています。「那智史料」は、昭和19年11月5日にマニラ湾で沈没した一等巡洋艦「那智」の保管書類で、戦時中米軍に押収されましたが、昭和36年4月、日本に返還されました。これら連合艦隊司令部の基本的命令のすべてが、終戦時焼却されたことから、「那智史料」は戦史研究上、貴重な史料となっています。



あ号作戦戦時日記戦闘詳報 (登録番号：④戦闘詳報戦時日記-37)

昭和19年5月3日、豊田司令長官は、連合艦隊「あ」号作戦命令を下令します。「あ」号作戦は、連合艦隊の決戦兵力を中部太平洋以南からニューギニア北岸正面に集中し、進攻する敵機動部隊を撃滅、その反攻企図を挫折させるというものでした(「連合艦隊命令作綴 其の二」登録番号：①命令-65)。6月15日、マリアナ諸島の要衝サイパンに米軍が上陸、連合艦隊は「あ」号作戦決戦を発動し、ここにマリアナ沖海戦(6月19日～20日)が生じます。日米のおよそ1000機を超える艦載機が太平洋上で戦ったこの海戦において、連合艦隊は大敗北を喫します。原因は、他方面の作戦に牽制されたこと、飛行機隊の訓練不足などでした。この史料は「あ号作戦戦時日記戦闘詳報」で、上記原因や作戦の経過、戦訓などが記されています。

《お知らせ》

防衛研究所移転に伴い、平成28年7月4日(月)～平成28年9月23日(金)は史料室が閉館となります。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>